

『彼らを守ってください』 ヨハネ17:6-19

17:6 わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜った人々に、み名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りました。

17:7 いま彼らは、わたしに賜ったものはすべて、あなたから出たものであることを知りました。

17:8 なぜなら、わたしはあなたからいただいた言葉を彼らに与え、そして彼らはそれを受け、わたしがあなたから出たものであることをほんとうに知り、また、あなたがわたしをつかわされたことを信じるに至ったからです。

17:9 わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためではなく、あなたがわたしに賜った者たちのためです。彼らはあなたのものなのです。

17:10 わたしのものは皆あなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。

17:11 わたしはもうこの世にはいなくなりますが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜った御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。

17:12 わたしが彼らと一緒にいた間は、あなたからいただいた御名によって彼らを守り、また保護してまいりました。彼らのうち、だれも滅びず、ただ滅びの子だけが滅びました。それは聖書が成就するためでした。

17:13 今わたしはみもとに参ります。そして世にいる間にこれらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためであります。

17:14 わたしは彼らに御言を与えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世のものでないように、彼らも世のものではないからです。

17:15 わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。

17:16 わたしが世のものでないように、彼らも世のものではありません。

17:17 真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。

17:18 あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。

17:19 また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。

●序論

先日の教職研修会の正式名称では、「JAG-MM33カンファレンス」。全世界のAG教団が心をひとつにし、共有して進んでいます。

①

まず日本AGのビジョンとして「教会開拓」「健全な教会形成」「世界宣教」「次世代育成」の4本柱が掲げられ、さらに②

ペンテコステの再燃「祈りと叫び」 ③

宣教ビジョンの御言葉をキャッチ！④

「宣友」としての交わりによる励まし合い があります。

そこでは、これまでの教団のあゆみと現状の課題が示され、さらにこれから将来の課題というものが語られていました。

一方で、これまでの長い教団の歴史の中で…

温故知新という古い諺ががあります。「故きを温(たず)ねて新しきを知る」ということでいうならば、すべて歴史的になくてはならない神さまのみわざがあったのです。そこでささげられた祈りが、今のわたしたちの信仰の土台となっているということです。

17章のイエス様の祈りはその時だけで終わっていない、イエスさまが天に上げられたのちも、弟子たちの上に、そしてその弟子たちの言葉を聞いて信じた人々の上に、さらには、その先を生きるわたしたちの上に、とりなしの祈りとして働いているのです。

17:20 わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。

祈りは2000年の時を経て、脈々と生きて働いているのです。

●本論

I. 彼らのアイデンティティの宣言

17:6 わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜った人々に、み名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りました。

ここに「弟子たちとは何ものか？」ということが祈りとして言葉に表されています。

①「あなた(父なる神)が、世から選んでわたし(イエス)に賜った人々」である。

弟子たちを選び、イエスさまにくださったのは、父なる神さまである。

②「御名をあらわした」。

その人に、イエスさまご自身の歩みと言葉を通して、神さまの愛と御心、神の国の真実を示したということです。

③イエスさまが、神さまから遣わされた人であることを知り、信じた人

:7-8 いま彼らは、わたしに賜ったものはすべて、あなたから出たものであることを知りました。なぜなら、わたしはあなたからいただいた言葉を彼らに与え、そして彼らはそれを受け、わたしがあなたから出たものであることをほんとうに知り、また、あなたがわたしをつかわされたことを信じるに至ったからです。

イエスさまを信じた人、その言葉を受け入れた人たちのことです。

これは、今、恵みの時代を生きるわたしたちも同様の者とされているのです。

弟子たちが、イエスさまの弟子たちであることの理由を説明しました。そのうえでイエスさまはこうお話になります。

17:9 わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためにではなく、あなたがわたしに賜った者たちのためです。彼らはあなたのものなのです。

イエスさまは言われました。「弟子たちは、父なる神さまのものです」と。
欠点も多い、無学な弟子たちは、イエス様から「父なる神さまのもの」という言葉を聞いているのです。
不思議ですね。けれども、これこそがイエスさまを信じた者がいただく、まさに「恵み」の世界なのです。

Ⅱ. 彼らの守りのための祈り

:9 わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためにではなく、あなたがわたしに賜った者たちのためです。

まず注目は、このとりなしの祈りの目的が「この世のためにではなく」と断った上で、すなわち、「弟子たちのために」、と言われている事です。

まず、弟子たちが守られ、祝福され、整えられないと話にならない。その先につながらない、からです。

だからイエスさまは続けてこう祈りました。

:11 わたしはもうこの世にはいなくなりますが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜った御名によって彼らを守って下さい。

ここでは、弟子たちが守られなければならないと、その守りを祈っているのです。14～15節にこうあります。

:14-15 わたしは彼らに御言を与えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世のものでないように、彼らも世のものではないからです。

わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。

聖書の御言葉に立とうとする者は、この世に憎まれると言われます。それは、この世の者でない生き方をするからです。神さまのものとされ、この世のためというのではなく、いつでも「神さまの栄光のため」を意識して生きる者となるからです。ああ、なんで私は信じちゃったんだろう。迫害や悩みの中でどう生きたらいいのだろう。…そう思う人はいらっしゃいますか？

そんな危機的環境の中に生きるわたしたちのためにイエスさまが祈ってくださっていたのです。

更にその守りの目的が祈られます。

「それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。」

歴史の中で、弟子たちによって各地に起こされた教会という集いです。

教会の中に、その交わりの中に、神さまいてくださり、またそこに同じ御霊、同じ

信仰を持つ、兄弟姉妹、家族としての交わりがあるのです。

これもまたイエスさまが願い、祈られたとりなしの祈りの結実なのです。

Ⅲ. 彼らの聖別のための祈り

:17 真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。

「聖別」という言葉は、「神さまのご用のためにとりわけると」という意味があります。そこには、神さまがお使い下さる目的があるからです。それは何か？

:18 あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。

この世に「遣わす」こと、つまり派遣すること、これこそが「御言葉の真理による聖別の目的」です。

あの残された11人の弟子たち。とても小さな群れです。けれども彼らを通して世界は福音を聞き、救いを知り、さらに各地に福音が、教会が広げられていったのです。

これは過去の出来事ではなく、長い歴史の真実であり、今も続く、すべての信仰者がもたらすことのできる、神の国の広がりを示しているのです。

だから誇りとして覚えていてください。イエスさまの祈りは、ここにいるわたしたちにも向けられています。

:15-16 わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。わたしが世のものではないように、彼らも世のものではありません。

わたしたちクリスチャンのアイデンティティは、この世にはなく、「わたしは神さまのもの」と言える救いの事実にあるからなのです。

さいごに)

:19 また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。

すべての人の救いの完成という目的のために、御自身の命をささげられた。それがイエスさまの言われた「私自身を聖別します」という言葉の示すことです。

そうして、そのイエスさまを救い主と信じたからこそ、わたしたちは、もはや自分のためではなく、神さまのために用いていただける人、神さまのために生きることができる者として聖別していただいているのです。

すべてが、イエスさまがとりなし祈られて、今に至るまで実現しているのです。

だから、感謝しましょう。そして信仰をもって、福音を証する歩みを進めてまいりましょう！ わたしたちのために、あの主イエスさまが祈ってくださっているのです！